

7. 質問票・グループインタビュー対象者等まとめ

質問票・グループインタビュー対象者等まとめ

No	月日	相手	人数	方法
1	3/5 (火) 午後	センターC/P 対象	20名	グループ・インタビュー・質問票
2	3/6 (水) 午前	受講者 (予防分野)	24名	グループ・インタビュー
3	3/6 (水) 午後	受講生所属先上長	9名	グループ・インタビュー
4	3/7 (木) 午前	受講生 (一般市民・企業関係者)	50名	グループ・インタビュー、質問票
5	3/7 (木) 午後	受講者、方庄中隊 (警防分野)	20名	グループ・インタビュー

## 3/5 午後実施 C/P へのグループインタビュー結果

## 質問 1

「4年半の技術協力で、最も印象深かったこと。新しく学んだ知識・技術・心構えは何か？」

## 【知識面、技術面】

1. 研修手法、訓練方法及び研修内容の科学性、総合性、実用性  
(消火戦術及び技術訓練分野)
2. 研修に関する消防知識
3. 比較的進んだ管理手法と仕事の進め方
4. 多くの消防関連知識
5. 先進的な研修体系
6. 研修における積極的な取り込む姿勢
7. 救助技術における団結意識（一体感）
8. 安全管理意識
9. 先進的な管理経験や実戦的な救助・消火技術
10. 日本における「自分を災害から守る」（自己救助）という知識  
①防災広報 ②市民研修（教育） ③各種研修形式
11. 日本における消防法規の科学性、合理性及び完備された人員研修制度
12. 日本の消防における先進的かつ高い防災力（訪日研修通じて）
13. 仕事の計画性と強い組織力
14. 優れた救助、防火広報、研修及び防火技術
15. 広範囲かつ豊富な知識
16. 管理技術
17. 広範囲かつ高い救助技術力
18. 防災施設・設備に関する操作方法
19. 計画性、統一性及び仕事の総括の方法等
20. 先進的な消防救助技術及び災害事故時の対処方法
21. 講義手法及びテクニック
22. パソコン知識及びパワーポイント作成方法
23. 高い消防業務、技術レベル
24. 専門分野においての知識の深さ
25. 専門家の資質から、日本の消防職員レベルを見ることができる。（40年来の成功）
26. 豊富な知識
27. 市民防災手法及び機材の活用
28. 仕事の計画性
29. 科学性、操作性及び安全性を重要視している救助技術

30. 市民防火防災教育に関する知識
31. 研修のテクニック
32. 業務計画の作成
33. 体系化された救助技術。
34. 関係研修教材の作成
35. 市民防火防災に関する知識
36. 日本の研修方法や管理手法（特に消防試験センターの運営方式）
37. 日本の「消防管理者制度」、「消防設備し制度」及び「消防点検資格者制度」
38. 火災原因調査の発展すべき方向が明確になったことから、将来における調査担当職員の素質向上と技能向上の方向が明確になった。

【精神面=心構え】

1. 消防救助事業に真摯な態度で取り込んでいる姿勢。(敬業精神) (多数)
2. 仕事に対し真面目で、責任感を持っている。(多数)
3. 日本人専門家の年齢は高いが、仕事に対する積極的で、効率性が高い。
4. いつも良い精神状態を保っている。
5. 日本消防職員の職業に対する敬愛精神や高い資質力
6. 仕事に対し真摯で、質問を真面目に答えている。
7. 個人の事情を決して業務と混同しない。(公私混同はない。)

【その他】

1. 技術術移転された技術及び知識は、実用的である。各種現場では、すでに活用され良い社会効果が上がっている。
2. 今後さらに中日協力を続けて欲しい。
3. プロジェクト成果は、中国消防全体に及ぼす影響は極めて大きい。
4. 消防研修業務レベルが向上された。
5. 市民及び消防従事者が研修できる場所ができた。
6. 受講者がセンターに対する信頼感が生まれた。(先進的な設備と豊富な教師陣)
7. 中日消防レベルには大きな差があり、協力することで、北京市消防の発展すべき方向が明白になった。(知識、技術、心構え、管理面含む)  
この方向性は、中国消防にとって、大変重要である。
8. 技術面においては、中日双方共通しているものが多いこと。また、管理の面においても学ぶところが多い。
9. 新しい考え方や技術が中国消防職員に対して大きな影響を与えた。  
例えば、救助技術、市民防災広報教育の役割、予防職員レベルの向上
10. 多くの職員が消防事業に対し従事していく気持ちを持っており、求心力が強化されている。
11. 消防専門分野レベルが向上した。  
例えば、視野が広がり、専門分野においては、さらに理解を深めた。
12. 日本のような消防職員がいれば、如何なる困難な業務、事業も成し遂げられる。
13. 研修体制が改善され、各種研修が実施されるようになった。
14. 研修成果が広く推進され、研修手段も豊富になった。
15. 訓練センターの設立によって、消防局の研修事業が可能になった。
16. 救助技術が研修を通じて、広がりを見せている。
17. 市民防災館来館者が3万人以上に達した。

3/5 午後実施 C/P へのグループインタビュー結果

質問 2

「新しく学んだ知識・技術・心構をどのように業務に生かしているのか、具体的に業務のどこが変わったのか？」

1. 学習した知識や方法については、わが国の実情に合わせて運用していきたい。また、仕事の面においても活用していきたい。
2. わが国の実情に合わせて、中国独自のものを確立していきたい（救助技術）
3. 研修体系化をつくり、中国消防事業の発展に寄与する。
4. われわれ C/P が防火監督の職場に戻ることによって、これまで学習したものが活用されることになる。
5. 日本の経験を参考に研修計画を策定する。
6. 多種多様な研修方法を取り入れる。  
例えば、ポイント、ビデオテープ、実験等、
7. グループ討議を行い、受講生から研修に対する意見を聞く
8. 消防事業に対する心構え（精神）を強化し、より計画性の高い仕事を進めていきたい。
9. 日本の管理知識を学習し、これまで約 3.8 万人一般市民を受け入れてきた。
10. 消防業務従事者の研修に必要な体制整備が既整え、必要な教材、設備や教官配置等の準備作業も完了した。研修そのものは今年の上半期に実施する予定。
11. 日本の「防火管理者制度」、「消防設備し制度」「危険物取扱者制度」などの制度を学習し、今後消防職員や消防業務従事者に対する各種研修に役立っていきたい。
12. 救助技術においては、センターの救助中隊が設立され、北京市消防特勤中隊幹部、隊員に対し研修を行った。また、中国の他の消防本部に対しては、「全国救助研修」を実施した。これらの研修の実施により、救助研修が北京または中国全土に広がりを見せた。
13. 救助技術をマスターすることにより、救援にかかる成功率や隊員の安全面が高められ、救援活動に大きな役割を果たしている。
14. 研修を通じて、学んだ知識を実際仕事の中に活用していきたい。
15. 計画性の必要性を痛感した。
16. 仕事の効率が上がり、より計画的と具体的になった。
17. 学習した知識、理論及び方法については、実際の業務に照らし合わせ、今後より多くの研修を実施していきたい。
18. センターにおける研修体制が体系化されつつある。（複数）
19. 救助技術においては、研修の実施により、受講生が救助技術をマスターし、実際の救援活動に役立っている。また、全国救助研修においては、大きな影響を与えている。

20. 市民防災分野はこれまで約 3.8 万人の市民を受け入れ、大きな成果が上がっている。
21. 市民防災教育の展開により、北京では近年において、大火災が発生していない。
22. 学んだ知識が実際の研修で活用され、多くの受講生にその知識を伝えた。(複数)
23. 仕事の進め方や問題の解決方法に幅ができた。
24. 学習した知識が研修センターの研修教材に盛り込んだ。
25. 学習した知識を国内の実情に合わせて、各種研修教材、研修体制に活用した。
26. 学習したことを整理した上で、一連の教科書作成し、研修の際に多くの受講生にその知識を与えた。
27. 日本人専門家との交流を通じて、仕事に対する考え方が変わり、より計画的、緻密になった。
28. 研修業務に良い影響を与えている。
29. 「北京市消防安全専門研修実施規則」草案作成に加わった。
30. 「北京市消防安全専門研修実施規則」の実施により、消防業務従事者に関する研修が法制化されることになる。
31. 学習した救助技術は北京勿論のこと、中国他都市に対し大きな成果が上がっている。
32. 訓練センター直屬中隊が特別救助第 1 中隊と指定され、研修だけでなく、実際の救援も担っている。
33. 救助研修に参加した隊員が各消防中隊の救助チームのメンバーとなっている。
34. 新しい技術の導入により、訓練センターは市民から歓迎される教育基地となっている。
35. 中日協力により、センターが建設され、各種研修が実施されるようになった。
36. 「北京市消防安全専門研修実施規則」の実施により、2008 年向けての消防業務従事者研修に大きく寄与した。
37. 車両、装備に品質の問題があり、改善をお願いしたい。

【精神面=心構え】

1. 消防救助事業に真摯な態度で取り込んでいる姿勢。(敬業精神) (多数)
2. 仕事に対し真面目で、責任感を持っている。(多数)
3. 日本人専門家の年齢は高いが、仕事に対する積極的で、効率性が高い。
4. いつも良い精神状態を保っている。
5. 日本消防職員の職業に対する敬愛精神や高い資質力
6. 仕事に対し真摯で、質問を真面目に答えている。
7. 個人の事情を決して業務と混同しない。(公私混同はない。)

【その他】

1. 技術術移転された技術及び知識は、実用的である。各種現場では、すでに活用され良い社会効果が上がっている。
2. 今後さらに中日協力を続けて欲しい。
3. プロジェクト成果は、中国消防全体に及ぼす影響は極めて大きい。
4. 消防研修業務レベルが向上された。
5. 市民及び消防従事者が研修できる場所ができた。
6. 受講者がセンターに対する信頼感が生まれた。(先進的な設備と豊富な教師陣)
7. 中日消防レベルには大きな差があり、協力することで、北京市消防の発展すべき方向が明白になった。(知識、技術、心構え、管理面含む)  
この方向性は、中国消防にとって、大変重要である。
8. 技術面においては、中日双方共通しているものが多いこと。また、管理の面においても学ぶところが多い。
9. 新しい考え方や技術が中国消防職員に対して大きな影響を与えた。  
例えば、救助技術、市民防災広報教育の役割、予防職員レベルの向上
10. 多くの職員が消防事業に対し従事していく気持ちを持っており、求心力が強化されている。
11. 消防専門分野レベルが向上した。  
例えば、視野が広がり、専門分野においては、さらに理解を深めた。
12. 日本のような消防職員がいれば、如何なる困難な業務、事業も成し遂げられる。
13. 研修体制が改善され、各種研修が実施されるようになった。
14. 研修成果が広く推進され、研修手段も豊富になった。
15. 訓練センターの設立によって、消防局の研修事業が可能になった。
16. 救助技術が研修を通じて、広がりを見せている。
17. 市民防災館来館者が3万人以上に達した。

3月6日 AM (予防職員研修)

質問1 「研修を受講して、最も印象深かったこと。新しく学んだ知識・技術・心構えは何か？」

【精神面】

1. 9月1日にアメリカで起きたテロが証明しているように、消防職員という職業は、犠牲(殉死)と無私奉仕である。
2. 一丸となって協力し、厳格な組織、規律をもっている。
3. 日本人専門家の消防救助事業に真摯な態度(敬業精神) (複数)
4. 時間厳守である。
5. 仕事に対し、緻密な計画性と投入をもって、問題に対処している。  
例：火災原因調査車の供与、火災事例集の作成  
関係分野の技術レベルの向上に寄与した。
6. 高い資質力、緻密な計画を持っている。 ?
7. 主人公意識と自己救護意識
8. 仕事に対し、責任感があり、無私奉仕の精神を持ち合わせている。
9. 日本人専門家は、強い職業観をもち、規律が厳しく、緻密な計画を持っている。

【知識面】

1. 建築防火及び化学危険物に関する知識(予防業務研修)
2. 市民に対し、開かれた研修を実施することで、住民の消防意識、知識が向上され、消防安全管理に寄与した。
3. 消防に関する法律、法規または技術規範、知識(研修を通じて)、
4. 震災時における避難方法と火災時の避難知識
5. 消防における法律、法規、技術基準、規範、査察及び自己避難方法
6. 煙中避難に関する知識(煙体験研修)
7. 日常の消防管理知識
8. 自ら予防し、自己救護能力が向上した。
9. 日本における消防査察事情
10. 消防業務知識の把握と強化
11. 多くの法律、法規に関する知識を学習し、法規に従って仕事を進める。
12. 資格者研修に実施により、予防知識がさらに強化された。
13. 新しい消防知識
14. 消防業務知識を学習することで、仕事に大変役立った。



### 【技術面】

1. 専門技術、管理に関する知識
2. 消防研修における視聴覚機材の活用（模型、実験、スライド、映像）
3. 国際先進的な製品の応用と推進  
高度な科学技術商品を広く消防の中に推進していく必要がある。
4. 起震車、模擬消火設備及び煙中避難研修
5. 救助技術研修に参加することで、救助技術能力及び自身の安全管理意識が向上した。
6. 日本では、危険物管理規定がきめ細かく規定することによって、運用しやすい。
7. 消火警報設備の使用、想定訓練と実火災の消火の関係
8. 模擬消火設備は良くできている。
9. 日本は、化学危険物火災に関する各種技術データをもっている。
10. 消防設備の操作
11. 避難方法の習得
12. 市民防災教育研修は、市民の防災知識を高め、日常の防火業務に大きな役割を果たしている。

### 【その他】

1. 4、5年かけて、訓練センターがやっとできた。センターがこれからもっと早くなる。（感想）
2. 多くの管理経験を学習した。
3. 消防に関する法律、法規をより理解を深めた。
4. 先進的な消防管理手法を学習した。

## 質問 2

「新しく学んだ知識・技術・心構をどのように業務に生かしているのか、具体的に業務のどこが変わったのか？」

1. 訓練センターが建設されたことで、さまざまな対象者に対し研修を実施できる。
2. 防火、消火設備の応用と推進により、予防能力が向上し、北京市の火災による死傷者が減少した。
3. 事業所等の消防関係者を組織し、訓練センターの研修に参加する。
4. 新しい知識を学習したことで、日常業務がより具体的かつきめ細かくなった。
5. 消防監督管理知識を学習することで、日常査察業務に役立っている。
6. 数回のセミナーに参加することで、建築設計面の規範がより全面的になり、現在の経済発展に適応することができた。
7. 新しい仕事の方法や経験を学習したことで、仕事がより科学的、効率的になり、特に仕事の計画性と問題解決能力が強化された。(複数)
8. 化学危険物安全管理においては、業務の標準化、定量データ化が進み、一部については既に効果が出ている。
9. 消防知識に関する視聴覚(機材)を活用した形式、方法は、既に危険物消防安全管理研修に役立っている。
10. 仕事の計画性、規律性、責任感が強化され、実際の仕事でとりわけ管理問題を重視するようになった。
11. 新しい知識を学習し、無計画性が減り、業務効率が向上した。
12. 化学危険物に関する緊急救援の面においては、データの収集を重要視するようになり、また関係部署と協力して総合データベースを構築中。
13. 学習した知識を実施の業務の中に生かし、業務効率を向上させ、一般市民に対し防災知識を広報していきたい。
14. 学習した知識を実際の業務に活用し、業務資質の向上に役立てたい。
15. 規律性が強化され、組織優先という精神がより具体的になった。
16. 理論知識学習の成果として、予防業務が改善された。(複数)
17. 消防規範を学習したことで、監督査察業務が強化された。
18. 消防法規を学習することで、法的根拠をもって業務に当たっている。
19. 学習した知識をさらに消防業務の指導に役立てたい。
20. 業務レベルが以前に比べて明らかに向上した。(複数)
21. 消防管理業務保障レベルが向上した。
22. 防火検査査察においては、規範と照らし合わせることで、仕事の方法と効果に科学的根拠が増した。
23. 救助技術を実際の救助現場に活用し、効果があった。
24. 新しい知識を学習することで、職員が予防部門の各部署について理解し、仕事が

やりやすくなった。

25. 仕事の効率が上がり、正確性が増した。
26. 煙を鑑定することで、いち早く火災現場の状況を把握でき、火点を正確に指定することができる。
27. 例：火災原因調査設備の供与により、原因調査の効率性、正確性が向上し、損失の減少に役立つ。

## 3月6日 午後実施 予防分野受講生上長インタビュー結果

## インタビュー参加者プロフィール

所属部門	職務／役職	部門人数	研修受講者数
戦訓処	処長	13	11
危管処	副処長	11	11
重点二処	副処長	16	13
技術処	処長	9	9
火災原因調査処	副処長	12	10
宣教処	処長	9	8
建築防火検査処	副処長	19	19
宣伝処	副処長	25	15
重点一処	副処長	15	15
合計	—	129	111

## インタビューにおける質問

「あなたの所属先の部下が、新しく学んだ知識・技術・心構をどのように業務に生かしているのか、具体的に業務のどこが変わったのか？」

## 【技術面】

1. 研修後、業務に対する理解が深められ、業務プロセスが把握でき、業務処理が上手になる。
2. 消防設備・施設に関する技術操縦の研修を通じて、(消防) 監督員が消防監督の実行において、消防設備の操縦プロセスを理解し、消防の実務を賄う能力を身につけた。よって、身につけた技術が企業や社会一般に対する監督・指導に役立っており、消防監督員の業務技能が向上された。
3. 業務担当者の技術レベルが向上され、業務能力が高められ、業務効率も大幅に改善された。
4. 消防設備の操縦に関する研修を通じて、受講者の設備の性能・用途に関する理解が深められた。これを予防検査に生かし、問題の発覚や解決に役立った。
5. 山岳、地下、水域に関する知識がアプリケーションされた。
6. 救助の基本常識が向上された。
7. 基本的な救助手段と方法は一層普及された。

## 【知識】

1. 業務担当者の知識を豊かにし、彼らは建築防火設計、監督管理、法規の執行に関する全面的な理解ができた。
2. 職務昇進（晋職）を目的とした研修を通じて、部下たちは予防・消火における知識が効率よく向上され、知識の分野が広げられ、規律厳守の教育も強化され、職責の遂行レベルも高められた。（宣教処）
3. 理論知識の学習を通じて、受講者は実践から経験を取りまとめ、さらにこの経験を実践に生かした。これによって、問題を解決する能力が高められた。
4. 消防監督員を対象にした法規関連の研修を通じて、予防検査や法律執行において、処の職員の業務レベルがいずれもある程度向上された。例えば、検査の内容がより一層明確、詳細になった。法律条項の運用が正確になった。
5. 知識が他分野に跨る。研修を通じて、自分の所属部署の専門知識をより一層把握できるだけでなく、他の業務部門の業務内容を理解できるようになる。
6. 10人が予防業務と予防監督資格の研修に参加した。研修を通じて、大卒の新入社員に火災の基礎知識や消火理論など基礎的な消防知識を把握させた。これら職員は対外的な広報活動を行う際に、より早めに業務状態に入ることができ、専門的な知識と広報手段を生かし、住民の安全意識を高めることに貢献した。この他、プレス記事の起案や、広報活動の展開時の業務がより一層熟練し、専門的に遂行できるようになる。（宣伝処）
7. 研修を通じて、消防製品の技術・知識を把握できた。例えば、スプリンコラの数種の規格と使用温度など。（技術処）
8. 建築防火において、建築構造の耐火等級、高層ビルの定義、超高層ビルの定義などを把握できた。（技術処）
9. 消防監督員を対象とした業務研修を通じて、処の幹部全員は監督員としての職場につく資格証明書を取得した。監督員の消防監督検査業務における研修を通じて、監督員は消防監督業務の内容、方法、プロセスを全体的に把握し、監督行為が規範化され、業務効率が向上された。監督に関する法律書類が規範化され、従来の随意性が高い業務行為が減らされ、業務の計画性が向上されたことが特に目立った。

## 【精神面＝心がまえ】

1. 職員は思想レベルが向上され、仕事に取り組む積極的な姿勢（敬業精神）が高められ、自発的、自主的に仕事をするようになった。
2. 仕事に対する姿勢が向上され、職責をより一層遂行できるようになり、勤勉、精一杯仕事するようになった。
3. 研修を通じて、受講者の「敬業精神」はある程度向上された。（宣伝処）
4. 仕事に対する態度がより一層積極的になった。幅広い知識と熟練した技術を把握

したため、業務をより一層こなせるようになり、多分野の仕事に参加する意欲が引き出された。

5. 訓練センターの訓練を通じて、幹部の思想レベルが向上され、特に幹部の敬業精神と向上心が高められた。

#### 【その他】

1. 10人が職務昇進（晋職）と軍人の階級昇格（晋銜）を目的とした研修を受けた。これにより、業務能力、幹部としての管理レベルが向上され、受講者本人は職責をよりよく遂行できるようになる。（宣伝処）
2. 消防監督・法律執行のプロセスが把握できた。例えば、消防法規違反に対し、どのような状況下で、法律に従って取り締まることが可能か、という前提条件など。
3. 研修を通じて、一部の幹部はこのような研修やこれ以外の研修があることを判明し、生涯学習や技能向上の意欲を強くした。
4. 自分の業務効率が高められ、業務レベルと能力がある程度向上された。
5. 学習を通じて、視野が広められ、同僚の業務内容と経験を把握することが出来た。
6. 業務方法と要求を規範化し、基準と制度が統一され、受講者は正確な業務のやり方が把握できた。

## 北京消防訓練センターにおける研修への参加者に対する質問票集計結果

記入日 (3月7日午前)

コース名:

時期:

資格・職位等:

所属部署名:

研修を受けられた方へ:今後当センターでの研修の効果を高めるために、研修内容の業務への利用状況・効果についてお伺いします。

受講時期

グループ名称	研修コース名	受講時期
豊台区居民委員会	市民防災	2001年11月
国家地震局	災害救助	2001年7月
中国輸出入銀行	市民防災	2001年6月
万興企業集団	市民防災	2001年11月

1. 研修の内容は、何らかの形で現在の業務に役立っていますか? (以下の選択肢から1つ選んでレを付け、また、具体的にはどういう形で役に立っているのかを教えてください。)

	非常に役立っている	かなり役立っている	あまり役に立っていない	全く役にたっていない。	計
民間企業 (輸出入銀行)	2	8	3	0	13
民間企業 (万興企業)	4	2	0	0	6
豊台区居民委員会	3	14	0	0	17
地震局	2	0	0	0	2
計	11	24	3	0	38

選択肢1)、2)の場合、具体的な例を教えてください:

## 【万興】

- ・消火器及び119通報の方法を学んだ。
- ・消火器がうまく使えるようになった。

## 【地震局】

- ・学んだ技術が実際の業務の中に使える。
- ・救助技術の応用・敬業精神

## 【居民委員会】

- ・従業員みなで、消火器の使用方法をマスターした。火災時には即座に対応でき、被害が最小限に繰りとめることができる。
- ・消火器の使い方と避難方法を学んだ。(2)
- ・消防業務のニーズを満たしている。
- ・予防と消防が連携して隠れた火災を取り除くことができる。
- ・建築と消防資機材の管理において応用されている。
- ・防火に関する基本知識を学び実際の仕事の中に応用している。
- ・学んだ防災知識を同僚に伝え、皆の防災意識の向上に努める。
- ・研修を通じて多くの火災予防知識を学ぶことによって、消防業務がスムーズにできるようになった。
- ・消防知識及び実際の聞き取扱いを学んだ。(例:119通報、避難方法)

## 【輸出入銀行】

- ・防火盗難および強盗に関する意識管理が強化され、関連施設、設備を導入する。日常における防火・消火知識。
- ・研修を通じて学んだ知識と技術が、実際の業務に生かせ、地震の防災・救災能力が向上した。
- ・2000年に実施した、消防演習訓練の際に避難指揮を担当した。
- ・これまでに一度も火災を起こしたことがない。

2. 上記1. での評価への補足説明として以下の項目で該当するものがありましたら、複数選んでも構いませんので、レを付けて下さい。

	仕事はかなりはかどるようになった	仕事の質が高まった	これから役に立つ技術である	既に知っている事柄であった	むずかしすぎた	業務に関連はあったが、理論的すぎてあまり実践的でなかった	実践的ではあったが、業務にあまり関連していなかった	その他(具体的に記載)
民間企業(輸出入銀行)	0	3	12	0	0	0	1	1
民間企業(万興企業)	4	6	6	0	0	0	0	0
豊台区居民委員会	6	13	8	0	0	1	0	0
地震局	0	2	3	0	0	0	0	0
計	10	24	29	0	0	1	1	1

3. 下記の各項目について、最もふさわしい選択肢を選び、丸で囲んで下さい

1) 研修レベル

	高すぎる	ちょうどよい	低すぎる	計
民間企業(輸出入銀行)	1	12	0	13
民間企業(万興企業)	1	5	0	6
豊台区居民委員会	2	15	0	17
地震局	0	3	0	3
計	3	35	0	39

2) 研修期間

	長すぎる	ちょうどよい	短すぎる	計
民間企業(輸出入銀行)	1	11	1	13
民間企業(万興企業)	1	2	3	6
豊台区居民委員会	1	11	5	17
地震局	0	3	0	3
計	3	27	9	39

3) 研修内容(講義・演習のバランス)

	講義が長すぎる・	バランスがとれている	計
民間企業(輸出入銀行)	1	11	12
民間企業(万興企業)	1	5	6
豊台区居民委員会	3	13	16
地震局	0	3	3
計	5	32	37



4) 講師の指導方法・技術

	優れている	ふつう	改善の必要が高い	計
民間企業（輸出入銀行）	10	2	1	13
民間企業（万興企業）	3	3	0	6
豊台区居民委員会	15	1	1	17
地震局	3	0	0	3
計	31	6	3	39

5) 研修機材について

	高度すぎる	適切である	簡易すぎる	計
民間企業（輸出入銀行）	1	12	0	13
民間企業（万興企業）	0	6	0	6
豊台区居民委員会	10	7	0	17
地震局	0	3	0	3
計	11	28	0	39

4. 以下の設問のうち、もっとも適切なものを選んでください。

- 1) 研修を終了した後、新たに習得した知識・技術・心構えを応用し、日常の業務に使っている。

	使っている	つかっていない	どちらともいえない	計
民間企業（輸出入銀行）	11	0	2	13
民間企業（万興企業）	5	0	0	5
豊台区居民委員会	17	0	0	17
地震局	3	0	0	3
計	36	0	2	38

- 2) 1) において、「業務に使っている」と答えた方にお尋ねします。具体的にどのような内容の新たな技術・知識・心構えを日常の業務に使っていますか？

【輸出入銀行】

- ・盗難防止、防火業務に全員参加する。
- ・電源、パソコンにおける火災防止
- ・避難の際にエレベータを使用せず、階段を使用する。
- ・消防機材の使い方および避難方法
- ・わが社の消防安全知識を普及する中で、防火安全、自己救護、電気の正しい使用方法およびガス使用方法などについて、明確になり、消防安全業務の促進に大いに役立った。
- ・消防資機材の使用法

- 3) 同じく1) において「業務に応用した」と答えた方にお尋ねします。研修受講前と比較してどのような業務の改善や、変化がありましたか？

【輸出入銀行】

- ・避難通路の誘導等が常時使用できる状態にする。
- ・オフィスでは禁煙する。
- ・オフィスをカーペットを敷き消火器を適切な場所に置く。

- ・防火意識が強化された。
- ・自己救護知識・技能を学んだ。特に緊密性が高い場所で火事が発生した場合、その空間の風通しを確保する。
- ・従来持っていた消防知識が変わった。すなわち自己救護知識の普及が現代都市の生活にとって大変重要なことである。
- ・意識が強化されて、業務改善に役立った。

4) 1) において「業務に使っていない」と答えた方にお尋ねします。実際の業務に使うことのできない理由は何でしょうか？

**【輸出入銀行】**

- ・消防栓、消火資機材の使い方。消防意識が強化されることで、隠れた火災が減少する。
- ・これまで危ないことに出会ったことがない。
- ・私は専門消防隊員ではないが、日常生活における消防意識が役に立っている。

以上の項目以外にも、是非改善すべきと思われる点がありましたら、以下に簡単に説明下さい。上記の回答に対する補足でも結構です。

**【万興】**

- ・センターの知名度を高め、また、研修分野が拡大することによって、多くの市民が教育を受けることができる。

**【地震局】**

- ・学んだ知識を生かして、自分たちの考え方、業務の進め方および訓練方法に役立っている。
- ・本プロジェクトができたことによって、多くの市民が防災教育および研修を受けることができた。

**【居民委員会】**

- ・経済発展のスピードが速くなればなるほど、消防の発展が不可欠になってくる。各種マスメディアを通じて、一人一人が火災の危険を知り、消防意識を強化する必要がある。
- ・わが社に対して、より一層の指導をお願いします。防火・消火知識を理解することができ、感謝します。
- ・幹部研修を実施してほしい（技術研修以外も）幹部がさらに従業員を組織し、業務展開を図る。

**【輸出入銀行】**

- ・研修は小学生を対象に実施した方が良いと思う。社会人に対しては実践を伴った研修が望ましい。
- ・専門技術、設備に関する研修を増設してほしい。
- ・実例を詳細に説明することによって研修効果がさらに向上できると思う。
- ・電気・ガスの正しい使い方や、火を使用する時の知識を紹介し、防火安全業務が‘予防第一’を推進する。
- ・可燃性・起爆性物品の保管、使用に関する知識の紹介。
- ・企業における高圧・通常電線の維持・保守・検査に関する知識紹介。（電気設備、電線の劣化、超負荷による火災の危険性など）
- ・定期研修の実施

最後に、当センターでの研修効果を現在の職場で活かしていくために環境（組織・制度・設備等）の整備が必要であれば、記述して下さい。

**【居民委員会】**

- ・ 防災管理研修を増やしてほしい。

**【輸出入銀行】**

- ・ 消防研修は近代的なものを目指すべき。例えば NY の同時多発テロの教訓を生かし、いかにして突発事故による悪影響を減らすかという問題。
- ・ 研修形式が良いので、影響がさらに拡大できる。
- ・ 可能であれば、研修人員、回数を増やし、研修内容を充実させ、消防の宣伝を強化する。また、災害・防災効果については統計を行い、比較することによって防火意識を普及する。
- ・ 子供向けの模擬訓練場所を増やし、子供が興味を示す研修内容の提供。小さいときの教育は大変重要である。

以上

3月7日 午後 (方庄中隊インタビュー) 消火20名

質問1

「4年半の技術協力で、最も印象深かったこと。新しく学んだ知識・技術・心構えは何か？」

【知識】

- 1、二階建て以上の建物の救助。
- 2、避難救助の基本知識を習得した。
- 3、高層ビル救助の基本知識を習得した。
- 4、二階建て以上の建物倒壊の救助、井戸救助の知識を習得した。
- 5、事故現場の破って、取り外す「破拆」知識を習得した。
- 6、震災後の救助知識を習得した。
- 7、高層ビル救助と避難の基本知識を習得した。
- 8、救助現場における戦友や指揮官との連絡知識を習得した。
- 9、救助現場での注意事項を習得した。
- 10、 震災現場での救助活動展開知識。
- 11、 機材の用途と技術性能。
- 12、 震災発生時、専門救助員として、身に付けるべき救助知識、救助方法、人ともものに対し実施する救助の姿勢を習得した。
- 13、 救助知識を習得した。例えば、井戸から人を救う。
- 14、 研修を通じて、私は一定の知識を把握した。火事現場の指揮者として、火災発生の過程と変化を理解するとともに、消火の方法、戦術の運用、消火のプロセスをもみにつけるべきである。これによって、正確、迅速、効率的に消火することが出来る。
- 15、 基本的な水難救助知識を習得した。(複数回答あり)

【技術】

- 1、どうやって自己防護をするかを習得した。
- 2、籠釣り(一点吊)、井戸救助、水平救助など具体的な人を救う方法を学んだ。並びに、どうやって負傷者を保護し、二次傷害を受けさせないようにするかを習得した。
- 3、地震救助技術。(複数回答あり)
- 4、消火専門訓練と震災救助訓練に参加したことがある。
- 5、縄結びと救助の操作方法を習得し、より一層安全的に自己及び被救助者を保護するかを身に付けた。
- 6、「破拆」救助機材の使用を習得した。
- 7、水難救助を習得した。(複数回答あり)
- 8、連梯子(拉梯)救助の操作法を習得した。(複数回答あり)

9、水におぼれる人を救う方法及び水におぼれる人に対し人工呼吸を行う方法を習得した。

(複数回答あり)

- 10、 数種簡単な水難救助技術と方法を習得した。
- 11、 煙道救助操作方法。
- 12、 各種縄結びの方法を学んだ。例えば、単結。
- 13、 「一点吊」の救助法を習得した。
- 14、 「一点吊」、水平救出の操作・方法を習得した。
- 15、 救助技術。(複数回答あり)
- 16、 煙道救出技術。(複数回答あり)
- 17、 井戸救出技術。(複数回答あり)
- 18、 縄結びを習得した。(複数回答あり)
- 19、 数種簡単な縄結び技術を習得した。(複数回答あり)
- 20、 縄結びを学んだ。例えば、八字結び、三種類腰部結びなど。
- 21、 消防救助技術。
- 22、 救助指揮のプロセスを習得した。(複数回答あり)
- 23、 各種救助技術を習得した。例えば、井戸救助。
- 24、 「破拆」救助機材の操作を習得した。
- 25、 二階建て以上の建物倒壊の救助における基本的な縄結び技術。
- 26、 数種の簡単な自己救助と陸上で人を救う方法。
- 27、 山岳救助技術・方法。(複数回答あり)
- 28、 濃えんの中で人を捜査する方法。
- 29、 滑縄援助技術・方法。(複数回答あり)
- 30、 個人防護技術。
- 31、 自己救助技術を習得した。例えば避難方法。

#### 【精神】

- 1、自分が深く愛している消防職業に対する真剣な精神を学んだ。
- 2、日本友人が仕事に対する真剣、謹厳な態度を学んだ。(複数回答あり)
- 3、日本側教官の敬業精神に深く感動した。彼らがいかなることを行うとき、厳格かつ迅速に行動し、いい加減なことを少しもしないやり方から大きな鞭撻を得た。
- 4、一人の消防隊員は住民の命、財産の保護者である。強い敬業精神を持ち、自分が従事している仕事に対し一種の責任感と使命感を負うべきである。
- 5、訓練現場での、骨身を惜しまない精神、根気強く指導する精神。
- 6、訓練現場での骨身を惜しまない精神。
- 7、訓練時の真剣さ、時間厳守の精神、並びに教官たちが根気強く繰り返し実演することに深く感動した。(複数回答あり)
- 8、敬業精神。(複数回答あり)

- 9、日本側教官の教示から、人を救うとき、少しのいい加減があってはならないことを学んだ。
- 10、日本側教官の指導から、個人装備が自分の命同然の存在であること、個人装備を大事にし、その上に座ったり、踏んだりしてはいけないことを分かった。
- 11、仕事の真剣さ。
- 12、教官が受講生に対する真剣な指導、厳しい要求を学んだ。
- 13、仕事の中、積極的に模索し、犠牲を怖がらなく、職責に立脚した精神を学んだ。
- 14、救助現場での緩まない精神を学んだ。
- 15、救助現場で時間が命であり、十分に時間を利用すべきことを学んだ。
- 16、訓練現場での日本側専門家の敬業精神を学んだ。彼らは訓練指導時、歩くことができなく、全て小走りで授業する。
- 17、仕事に対する真剣さを勉強し、研修後の毒ガス処理において安全係数が向上された。
- 18、高層ビル救助の訓練において、私の度胸が絶えられ、危険な状況に面して怖がらず、冷静に判断する能力を備えられたため、よりよく各種危険状況を処理できるようになる。
- 19、仕事の時、時間厳守を学んだ。よって、合理的に時間を手配し、一刻一秒も無駄にしないようになる。

## 質問2

「新しく学んだ知識・技術・心構をどのように業務に生かしているのか、具体的に業務のどこが変わったのか？」

- 1、①私は出動した交通事故の救助において、破って、取り外して救助（破拆）技術を応用した。②学んだ救助活動の指揮プロセスを火事現場での指揮に応用し、火事現場での指揮能力を高めた。③訓練における日本側専門家の「敬業精神」に感動した。日本側専門家が訓練時に制服すること、受講者と一緒に行動すること、受講者に分かってもらうまで繰り返して動作を実演することに感服し、研修後、それを中隊の全員に伝えた。④日本側専門家の謹厳な仕事振りから、どんな小さなことに対しても、常に安全意識を持つべきであることを習得した。例えば、訓練中、受講生の中からヘルメットを取った人がいたものの、日本側専門家は訓練中、こんなことを絶対やらない。訓練中の全てのプロセスに関し、段取りに従って行う。時間の節約などを理由にプロセスを省略したことが一回もない。しかし、私たち受講生の中には手抜きなどをした行動や意識があった。このような意識や行動により、知識などの学習を確実に行えない恐れがある。これはまた事故現場で混乱を起こす原因になり、乃至自分自身の安全に影響することになる。

- 2、学んだ知識、技術、特に個人防護技術が実際の消火に大いに役立った。消火活動に取り掛かる前に、各消防士がヘルメット、手袋、防護道具を身につけなければならないことを習得したとともに、日常生活において、時間厳守、迅速行動の気風や謙虚な学習態度、職業への情熱を培った。
- 3、類似の火災、救助活動に参加したことがないため、実際の活用経験がない。
- 4、訓練を通じて、私たちの訓練の質、活動効率が向上され、どうやって機材を維持管理するかを習得した。
- 5、縄による救助技術が平日の業務訓練や救助現場で活用されたケースが少なかった。研修後、このような現象が大きく改善された。業務訓練や救助の効率を大きく高めればかりでなく、本人や被救助者の安全確保にも貢献した。自分にとっては、(この技術を習得後) リラックスな心境で各種救助現場に向かうことができた。よって、国家と住民に大きく貢献できる。
- 6、①研修で学んだ知識を職場に戻ってから、戦友に伝えた。②1回エレベータ事故による人を助けた現場で、学んだ「井戸救助」技術を使った。③仕事に対する真剣な姿勢を重型防護服の着用に生かした。重型防護服着用時、安全性、密閉性を確保しなければならないためである。
- 7、訓練現場で自分を厳しく要求し、火事現場で規律厳守や安全の意識を強化することができた。
- 8、①数種の簡単な縄を結ぶ技術(結縄技術)を救助現場に効率よく利用した。これは自分自身の安全確保に貢献したとともに、困難の解決や危険状況の排除にもつながった。②水難事故時の人を救う基本知識を利用し、隊員の水難救助時の間違い認識を是正し、彼らに正しい知識を把握させた。
- 9、①火事現場において、学んだ「結縄技術」を利用し、腰で結び目を作って下りて、ドアをあけて、室内の人を救った。②彼ら(センター教官たち)の敬業精神を学び、自分の資質向上に役立った(複数回答)。③職場に復帰後、学んだ知識を戦友に伝え、彼らに災害現場で一種の自己防衛方法を身に付けさせた。
- 10、学んだ新しいことをたくさん日常業務に使った。例えば、「結縄技術」は多様な問題解決に貢献した。今後救助現場で「結縄技術」を多く採用するようになる。
- 11、訓練を通じて、学んだ知識、技術、精神が日常業務に大きく役立った。例えば、知識面において、私は学んだ救助知識、自己防護知識を日常訓練で戦友に伝え、戦友たちの救助や自己防護の意識を高めた。技術面において、学んだ基本的な「結縄技術」を日常訓練で広く応用した。
- 12、敬業精神、時間厳守の習慣、規律厳守の習慣、自己防護が向上された。
- 13、精神面について、訓練時やいかなる仕事に従事したときにおいても、一定のプロセスと規律に従うべきだ、ということを知得した。研修を通じて、日本側専門家が各仕事に対する格別な真剣さを勉強した。

- 14、 ①私は訓練センターで日本側専門家の訓練現場で安全管理を重んじる精神を学んだ。また、これを職場復帰後の訓練指導に応用した。例えば、訓練現場では自分の物品をよく保管すること、つねにヘルメット、手袋を着用すること。②現場シミュレーション、実用技術は類似の救助活動に大いに応用された。例えば、井戸救助技術を活用し人を救うとき、従来は人の運送や簡単な救助が出来なかった。研修を通じて、簡単な救助法と人の運送法を習得した。
- 15、 自己防護知識が大きく向上された。従来は救助活動において、自己救助を構わずにしていたが、研修を通じて、自己防護をうまく賄ってからはじめて人をすくうことができる、という知識を習得した。救助技術が大きく改善された。一つの応用技術は一人の命に関わる。精神について、敬業精神、仕事に対する真剣さが日常業務を大きく改善した。また、良好な業務態度、他人に対して根気強く指導する精神、他人を尊敬する姿勢を培った。交通事故の救助において、私は学んだ運搬技術で負傷者を車内から運び、彼の命を保った。
- 16、 数種の「結縄技術」は救助活動に大きく役立った。例えば、腰で結び目を作る方法はドアをあけるのに応用された。ちょう結びはものを引っ張るのに応用された、など。私は自己防護の重要性や救助出動同士の向心力の重要性を認識した。学んだ結縄技術、救助方法などを戦友に教えた。
- 17、 救助活動から得た緊迫感の下、事故現場に向かうとき、最短時間で現場到着、かつ任務遂行を実現した。並びに、損失を最小限に抑えた。
- 18、 学んだ医療知識を使って、事故現場で負傷者に対し簡単な医療手当てをし、第一時間で負傷者を救助し、かつ傷害を最小限に抑えた。
- 19、 自己防護知識を生かし、救助現場や訓練現場で、自分を十分に守ったうえで、救助の効率を向上した。それと同時に、良好な習慣を身につけた。即ち、救助する前に、まず自分の安全を確保することである。
- 20、 井戸救助方法を採用し、事故現場で井戸に落ちた子供を救った。
- 21、 救助訓練を受けながら、新しい知識を模索しようという意欲を引き出した。
- 22、 習得した数種の「結縄技術」は救助活動における自己救助や避難者の救出に役立った。
- 23、 訓練現場や火事現場において、規律厳守の観点と安全意識が向上された。
- 24、 「滑縄」による自己救助に対する研修から学んだ「結縄技術」を利用し、速やか、かつ安全に「滑縄」による自己救助の訓練を完成した。
- 25、 高層ビルでの救助に関する知識が増えた（方法、自己防護の安全係数）。
- 26、 「滑縄」による自己救助技術、人を救う方法、各種「結縄技術」を習得し、訓練現場に応用した。
- 27、 仕事に対する真剣さを習得した。
- 28、 負傷者と隊員の自己防護に関して、新たな知識を得た。



2002年1月18日現在

8. プロジェクト準備資料  
(1) 携行機材実績

## 携行機材購入実績

購入年度	整理番号	機材名	価格(円)	数量	利用(保管)場所	利用状況	管理状況	専門家氏名	備考(特記事項)
97 (H9)	97B001	パソコン MAC4400/200	307,000	1台	調整員室	良好	良好	田中徳成	1997年10月27日到着
	97B002	ソフトウェア Excel5.0	29,800	1式	・	・	・	・	
	97B003	ソフトウェア マックライトII	8,500	1式	・	・	・	・	
	97B004	プリンター LBP-320	72,200	1台	・	・	・	・	
		トナーカートリッジ	82,000	10箱	・	・	・	・	
	97B005	変圧器 (220V→110V)	16,500	1個	・	・	・	・	
		チューブファイル	28,000	40冊	・	・	・	・	
		フラットファイル	6,000	80冊	・	・	・	・	
	97B006~08	辞書	22,358	3冊	・	・	・	・	
	97B009	パソコン MAC PowerBook1400C	331,200	1台	調整員室	良好	良好	尾崎研哉	1997年12月15日到着
	97B010	ソフトウェア マックライトII	8,500	1式	・	・	・	・	
	97B011~67	消防専門図書	77,302	56冊	・	・	・	・	
		救助用ロープ 12mm×200m	200,000	5巻	センター内倉庫	良好	良好	安部寛三	1998年1月6日到着
		カラビナ KD-10	30,000	30個	・	・	・	・	
		滑車 (アルミ製)	60,500	5個	・	・	・	・	
		トレーニング用ダミー (布製)	66,000	1体	・	・	・	・	
		救助用手袋 (L、LLサイズ)	72,000	30双	・	・	・	・	
	合計	1,417,860		・	・	・	・		

2002年1月18日現在

## 携行機材購入実績

購入年度	整理番号	機材名	価格(円)	数量	利用(保管)場所	利用状況	管理状況	専門家氏名	備考(特記事項)
98 (H10)	98B001	パソコン MAC5500/225	252,000	1台	防災指導処	良好	良好	泉本邦弘	1998年6月4日到着
	98B002	プリンター BJC-420J	56,200	1台	・	・	・	・	
	98B003	変圧器 (220V→110V)	7,800	1台	・	・	・	・	
		インクカートリッジ BC-21e	44,200	10箱	・	・	・	・	
	98B004~18	消防専門図書	71,100	15冊	・	・	・	・	
	98B019	スキャナ	85,000	1台	防災指導処	良好	良好	細尾稔	1998年7月到着
	98B020	レーザープリンター	75,400	1台	専門家室	・	・	・	
		光沢紙 (50枚入り)	68,000	40箱	・	・	・	・	
		カラーカートリッジ EP-A	83,000	10個	調整員室	・	・	・	
	98B021~22	レーザーポインタ	32,000	2台	・	・	・	・	
		単3型乾電池	5,400	20個	・	・	・	・	
		アダプタプラグ	2,400	4個	・	・	・	・	
		OA用タップ	4,200	2個	・	・	・	・	
		Calculator	7,800	1個	・	・	・	・	
		革手袋	39,000	30双	センター内倉庫	良好	良好	安達広	
	98B023	張力計 YR100	173,000	1基	・	・	・	・	1998年11月到着
	98B024	安全ネット 16m×5m	226,000	1枚	・	・	・	・	
	98B025	加熱試験器	65,000	1式	総合実験室	良好	良好	藤本光司	1999年3月23日到着
	98B026	加煙試験器	68,000	1式	・	・	・	・	
	98B027	減光フィルター試験器	92,000	1式	・	・	・	・	

2002年1月18日現在

98 (H10)	98B028	スプリンクラーヘッド専用スパナ	12,000	1式	総合実験室	良好	良好	藤本光司	1999年3月23日到着
	98B029	絶縁抵抗計	32,000	1式	・	・	・	・	
	98B030	ビトーゲージ	17,000	1式	・	・	・	・	
	98B031	保守工具セット	130,000	1式	・	・	・	・	
		救助用ロープ 12mm×200m	119,700	3巻	センター内倉庫	良好	良好	深瀬八郎	1999年3月到着
	98B032	パソコン GP6-366 c Getway	200,130	1台	・	・	・	・	
	98B033	変圧器 (220V→110V)	3,360	1台	・	・	・	・	
	98B034	パソコン GP6-366 c Getway	200,130	1台	防災指導処	良好	良好	西村常男	1999年3月到着
	98B035	変圧器 (220V→110V)	3,360	1台	・	・	・	・	
	98B036~38	消防専門図書	12,600	3冊	専門家室	良好	良好	西村常男	
		合 計	2,187,780		・	・	・	・	

2002年1月18日現在

## 携行機材購入実績

購入年度	整理番号	機材名	価格(円)	数量	利用(保管)場所	利用状況	管理状況	専門家氏名	備考(特記事項)
99 (H11)	99B001	パソコン ValuestasNX	257,000	1台	防災指導処	良好	良好	松山豊	1999年7月16日到着
	99B002	デジタルカメラ FX-2700	30,500	1台	調整員室	良好	良好	松山豊	
		Connection Kit	8,000	1個	・	・	・	・	
		スマートメディア 32P	12,800	1枚	・	・	・	・	
		バッテリーチャージャ BC-80	5,700	1個	・	・	・	・	
		指揮棒'北京市消防局'	57,000	1個	センター内倉庫	良好	良好	平松一隆	1999年7月21日到着
		ゼッケン(指揮者用)	20,000	5枚	・	・	・	・	
		(NO.1)	20,000	5枚	・	・	・	・	
		(NO.2)	20,000	5枚	・	・	・	・	
		(NO.3)	20,000	5枚	・	・	・	・	
		(NO.4)	20,000	5枚	・	・	・	・	
	99B003~08	携帯用警報機	192,000	6台	・	・	・	・	
		救助靴(25.0cm)	18,800	2足	・	・	・	・	
		(25.5cm)	28,200	3足	・	・	・	・	
		(26.0cm)	28,200	2足	・	・	・	・	
		(26.5cm)	18,800	2足	・	・	・	・	
		救助用ロープ 12mm×200m	48,000	1巻	・	・	・	・	
		ペンライト	16,000	40個	防災指導処	良好	良好	井上光宏	1999年8月30日到着
		メジャー	36,000	40個	・	・	・	・	
		三角スケール	26,000	40個	・	・	・	・	

2002年1月18日現在

99 (H11)	99B009	ポインタ	3,200	1個	防災指導処	良好	良好	井上光宏	1999年8月30日到着
	99B010~11	メガホン	26,000	2個	・	・	・	・	
	99B012	電気スタンド	6,800	1個	・	・	・	・	
	99B013~15	ビデオソフト	133,300	3本	・	・	・	・	
		救助靴 (25. 0cm)	14,000	2足	センター内倉庫	良好	良好	中谷明美	1999年10月到着
		(25. 5cm)	14,000	2足	・	・	・	・	
		(26. 0cm)	14,000	2足	・	・	・	・	
		(26. 5cm)	14,000	2足	・	・	・	・	
		救助用ロープ 12mm×200m	156,000	3巻	・	・	・	・	
		革手袋	20,000	10双	・	・	・	・	
		救助用手袋	105,000	30双	・	・	・	・	
	99B016~20	訓練用水消火器 (3L)	70,000	5個	防災指導処	良好	良好	折坂一也	1999年10月到着
	99B021~25	訓練用水消火器 (2L)	65,000	5個	・	・	・	・	
	99B026~31	消火器割見本	74,000	6個	・	・	・	・	
		非常用持ち出し袋	54,600	3個	・	・	・	・	
	99B032	燃焼実験用オイルパン	16,500	1個	・	・	・	・	
	99B033~34	点火棒	70,200	2個	・	・	・	・	
	99B035	映像ソフト	81,000	1本	・	・	・	・	
		救助用ロープ (12mm×200m)	385,000	10巻	センター内倉庫	良好	良好	岡 宏	2000年3月17日到着
		救助用手袋	63,000	50双	・	・	・	・	
99B036~45	初期消火用水消火器(3L)	105,000	10本	市民防災館	・	・	・		
	合 計	2,373,600		・	・	・	・		

2002年1月18日現在

## 携行機材購入実績

購入年度	番号	機材名	価格	数量	利用(保管)場所	利用状況	管理状況	専門家氏名	備考(特記事項)
00 (H12)		救助用ロープ (12mm×200m)	76,000	2巻	センター内倉庫	良好	良好	小谷正行	2000年5月15日到着
		カラビナ 90×35 10mm	9,300	6個	・	・	・	・	
		救助用手袋 (LL)	28,800	12双	・	・	・	・	
	00B001	書籍(6分冊)	5,715	1式	リーダー室	・	・	・	
	00B002	書籍(18分冊)	14,286	1式	・	・	・	・	
	00B003~12	書籍	36,300	10冊	・	・	・	・	
	00B013	パソコン GP6-500C	167,000	1台	・	・	・	・	
	00B014	プリンタ PM-800C	53,500	1台	防災指導処	・	・	・	
		ロール紙ホルダー	1,500	1個	調整員室	・	・	・	
		フォト専用紙	950	1式	・	・	・	・	
		エンジンカッター切断刃	¥20,000	10個	センター内倉庫	良好	良好	椋山 一紀	2000年5月15日到着
		チェーンソー切断刃	33,000	5個	・	・	・	・	
	00B015~16	救助訓練用ダミー	127,600	2個	・	・	・	・	
	00B017	救助用担架	115,000	1個	・	・	・	・	
		O型安全環付カラビナ (大)	13,200	20個	・	・	・	・	
		O型安全環付カラビナ (小)	54,000	20個	・	・	・	・	
		滑車 (12mmロープ2本用)	44,000	5個	・	・	・	・	
		滑車(山岳用:ストッパ付)	20,000	2個	・	・	・	・	
		滑車(山岳用:ストッパなし)	13,000	2個	・	・	・	・	
		エイト環	2,800	2個	・	・	・	・	
	A T C (山岳用資器材)	6,300	3個	・	・	・	・		

2002年1月18日現在

00 (H12)		山岳用ザイル(11mm×50m)	28,000	1巻	センター内倉庫	良好	良好	桃山 一紀	2000年5月15日到着
		山岳用ザイル(9mm×50m)	20,000	1巻	・	・	・	・	
	00B018	デジタルカメラ OLYMPUS C-2020ZOOM	96,500	1台	調整員室	良好	良好	田村 信幸	2000年5月15日付到着
		フロッピーディスクアダプター	20,400	2台	・	・	・	・	
		メモリーカード	16,600	2個	・	・	・	・	
		交流アダプター	3,800	1個	・	・	・	・	
		充電器セット	5,500	1個	・	・	・	・	
		デジタルカメラレンズアダプター	1,700	1個	・	・	・	・	
	00B019	デジタルカメラ用望遠レンズ	8,500	1個	教育訓練処	・	・	・	
	00B020	デジタルカメラ用広角レンズ	14,500	1個	・	・	・	・	
	00B021	デジタルカメラ用接写レンズ	9,400	1個	・	・	・	・	
		乾電池充電器 (4本セット)	¥4,200	2台	・	・	・	・	
	00B022	フィルムスキャナー Photo smart S20	82,800	1台	・	・	・	・	
	00B023	スキャナー GT-7600U	38,000	1台	・	・	・	・	
		フィルム取込用スキャナーユニット	8,800	1個	・	・	・	・	
		スキャナー用オートシーダー	17,600	1個	・	・	・	・	
	00B024	電圧安定装置	36,000	1台	・	・	・	・	
	00B025~34	書籍	26,082	10冊	・	・	・	・	
	00B035	パソコン SONY VAIO PCG-F50	250,000	1台	専門家室	良好	良好	小嶋潤一郎	2000年6月2日到着
		消火器充填装着媒介器具	106,500	15個	市民防災館	良好	良好	白木 貞二郎	2000年8月4日到着
00B036	携帯型119番火災通報訓練装置	310,000	1台	防災指導処	・	・	・		
00B037	電動式ホワイトボード	188,500	1台	大ホール (3階)	良好	良好	濱出 悟史	現地調達(2000.6.15申請) 14,500円 13	

2002年1月18日現在

00 (H12)	00B038~42	消火訓練用トレーナー	61,000	5本	市民防災館	・	・	・	2000年8月4日付到着
		プリンター用インク(黒)	6,000	5個	調整員室	・	・	・	
		プリンター用インク(カラー)	6,000	5個	・	・	・	・	
		フォトプリント紙	4,900	1箱	・	・	・	・	
		ワープロ用リボンカセット	2,400	5本	・	・	・	・	
	00B043	レコーディングレサシアン	299,000	1台	防災指導処	良好	良好	椎嶋 健二	2000年8月18日付到着
	00B044	バスケット担架 (71型)	98,700	1基	センター内倉庫	・	・	・	
		エイト環(大) フック付	52,000	10個	・	・	・	・	
	00B045	カメラ EOS Kiss 3	49,280	1台	教育訓練処	良好	良好	大江康夫	2000年9月1日到着
	00B046	レンズ EF28-80mm F3.5-5.6VUSM	20,020	1個	・	・	・	・	
	00B047	レンズ EF20-35mm F3.5-4.5USM	59,290	1個	・	・	・	・	
	00B048	マイクロレンズ EF50mm F2.5	29,500	1個	・	・	・	・	
	00B049	スピードライト 550EX	38,500	1個	・	・	・	・	
	00B050	マイクロリイグライト MR-14EX	53,130	1個	・	・	・	・	
	00B051	温度計	65,000	1台	・	・	・	・	
	00B052	投光器 (本体 1-250 三脚 K-1 コードリール GT-301K)	88,000	1式	センター内倉庫	良好	良好	吉田 一志	2000年11月17日到着
	00B053	張力計 TMD3000	194,000	1台	・	・	・	・	
	00B054	軽量ダブル滑車	26,000	1個	・	・	・	・	
	00B055~56	航空救助用安全敷帯	116,000	2本	・	・	・	・	
	00B057	サバイバースリング (航空救助用)	133,000	1個	・	・	・	・	
00B058	爆発筒	118,000	1個	防災指導処	良好	良好	酒寄 恵司	2000年11月20日到着	
00B059	石油蒸発箱	99,000	1個	・	・	・	・		



2002年1月18日現在

00 (H12)	00B060	収納箱	49,000	1個	・	・	・	・	2000年11月20日到着
	00B061	静電電位測定器	72,000	1台	・	・	・	・	
	00B062~69	ビデオ	61,233	8本	・	・	・	・	
	00B070~74	岩波理化学事典	154,035	5冊	・	・	・	・	
	00B0075	パワーポインタープロジェクター	884,000	1台	調整員室	良好	良好	金森 宏	現地調達(2000.12納入) 68,000円 13円/元
	00B0076	コピー機 LANIER7335	973,000	1台	コピー室	・	・	小嶋潤一郎	現地調達(2001.3納入) 69,500円 14.0円/元
	00B0077	パソコン SONY VAIO	260,000	1台	調整員室	・	・	小嶋潤一郎	2001年5月到着
		インクカートリッジ (カラー)	20,400	10個	・	・	・	・	
		インクカートリッジ (黒)	22,600	10個	・	・	・	・	
		救助用ロープ	235,000	5巻	センター内倉庫	・	・	・	
		チューブファイル	72,000	100冊	・	・	・	・	
		防塵メガネ	25,000	10個	センター内倉庫	良好	良好	長沢享	2001年5月到着
		水中ライト	15,300	2個	・	・	・	・	
		救命浮き輪	13,600	2個	・	・	・	・	
		ザイル (ロープ)	49,000	2巻	・	・	・	・	
		登降器	22,800	4個	・	・	・	・	
		グラスソー	27,000	1個	・	・	・	・	
		消火ホース (60mm×10m)	44,000	2本	・	・	・	・	
		救助用ロープ (12mm×200m白)	180,000	4巻	・	・	・	・	

2002年1月18日現在

00 (H12)		救助用ロープ (12mm×200m赤)	124,000	2巻	センター内倉庫	良好	良好	長沢享	2001年5月到着
		シートハーネス	39,600	2個	.	.	.	.	
	00B0078～81	デスクトップ型パソコン	392,000	4台	各処	良好	良好	小嶋潤一郎	現地調達(2001.3納入) 合計 79,000円 14円/ 元
	00B0082	ノート型パソコン	252,000	1台	防災指導処	.	.	.	
	00B0083	レーザープリンター	39,200	1台	防災指導処	.	.	.	
	00B0084	インクジェット式プリンター	42,000	1台	防災指導処	.	.	.	
	00B0085	LANネットワーク	380,800	1式	各階 (1～4階)	B	B	.	
		合計	8,203,921						

## 携行機材購入実績

購入年度	番号	機材名	価格	数量	利用(保管)場所	利用状況	管理状況	専門家氏名	備考(特記事項)	
01 (H13)	01 B001	キャクタージェネレータ (編集装置)	1,800,000	1台	407号室	良好	良好	小嶋潤一郎	現地調達(2001.8納入) 120,000円 15.0円/	
		マリンプーツ	12,600	2足	センター内倉庫	良好	良好	山本密雄		
		水中マスク	16,000	2個	・	・	・	・	2001年6月到着	
		スノーケル	6,400	2個	・	・	・	・		
		足ひれ	20,000	2個	・	・	・	・		
		フローティンググローブ (12mm)	18,500	1本	・	・	・	・		
		グローブ	12,000	2双	・	・	・	・		
		01 B002~03	空気呼吸器用ボンベ	260,000	2台	市民防災館	良好	良好	草川英一	2001年9月到着
		01 B004	煙体験ハウス	135,000	1基	・	・	・	・	
		01 B005	発煙機 (ケース付)	279,000	1台	・	・	・	・	
			発煙機用薬剤	22,800	6L	・	・	・	・	
		01 B006	変圧器 (220V→110V)	33,000	1台	防災指導処	・	・	・	2001年9月到着
		01 B007	小型発電機	138,000	1台	センター内倉庫	良好	良好	長沢享	
		01 B008	ハンディブレーカー	104,900	1台	センター内倉庫	良好	良好	内山敦司	2001年10月到着
	01 B009	レバーブロック	30,800	1台	・	・	・	・		
	01 B010	スクープストレッチャー	118,900	1台	・	・	・	・		

2002年1月18日現在

01 (H13)	01B011	ライフセーバー	24,300	1台	センター内倉庫	良好	良好	内山敦司	2001年10月到着
	01B012	緊急手動式、人工呼吸器	36,400	1台	・	・	・	・	
		頸部固定用副子	9,000	2個	・	・	・	・	
	01B013	ターボリン担架	26,700	1台	・	・	・	・	
	01B014	カラープリンター PM-780C	21,500	1台	・	・	・	・	
	01B0015~16	変圧器 (220V→110V)	19,000	2台	・	・	・	・	
	01B017	カラスキャナー GT-8200U	22,700	1台	・	・	・	・	
		合 計	3,167,500						

注1. 消耗品に所属するものについては、整理番号を付してない。

注2. 上記金額については、消費税（書籍を除く）及び輸送費等が含まれていない。

## (2) センター職員名簿

## 北京消防訓練センター職員名簿

2001年12月31日現在

所属部署	氏名	職務担当	備考
プロジェクト運営管理 (4名)	蘇向明	主任	
	趙澤明	常務副主任	
	劉建平	副主任	
	李建春	副主任	予防総括
秘書処 (10名)	楊国甫	処長	
	王晓慧	人事(兼消火戦術 C/P)	
	姚倪	外事(兼市民防災 C/P)	
	呉利民	図書管理 (兼消火戦術 C/P)	
	王玲	財務管理	
	王利紅	財務管理	
	蔡	財務管理	
	宋凱	一般事務	
	王永	一般事務	
	張螢	財務管理	出向中
後勤処 (23名)	李東海	処長	
	王永軍	設備管理責任者 (兼市民防災 C/P)	
	劉海庫	ボイラ設備管理	
	羅雨来	ボイラ設備管理	
	高双連	ボイラ設備管理	
	ツ文川	ボイラ設備管理	
	王洪兵	施設維持保守管理	
	王奇勇	施設維持保守管理	
	李行	施設維持保守管理	
	劉誠	車両管理責任者	
	鄭宝強	運転手	
	張海濱	運転手	
	程洪雷	運転手	
	王陽	運転手	
	張偉	運転手	
	賀鵬飛	運転手	
	魏友龍	食堂管理責任者	
	董明	食堂スタッフ	
	劉建波	食堂スタッフ	
	陳体超	食堂スタッフ	
王晓飛	食堂スタッフ		
張勇	食堂スタッフ		
劉利軍	食堂スタッフ		

所属部署	氏名	職務担当	備考
防災指導処 (11名)	金 巍	処長代理 市民防災分野 C/P	教官
	施鴻偉	市民防災分野 C/P	教官
	羅昌偉	市民防災分野 C/P	教官
	高世奇	市民防災 C/P	兼通訳
	陳雪剛	火災原因調査分野 C/P	教官
	薛 端	防火検査と監督分野 C/P	教官
	斉 恒	防火検査と監督分野 C/P	教官
	吳 涛	危険物安全管理分野 C/P	教官
	張 一	消防設備操作分野 C/P	教官
	朱晨光	消防設備操作分野 C/P	教官
	康 健	建築防火分野 C/P	教官
訓練処 (7名)	孔凡泉	処長 (消火戦術分野 C/P)	兼教官
	韓文東	消火戦術分野 C/P (救助訓練担当)	教官
	宋 泓	消火戦術分野 C/P (戦術・指揮担当)	教官
	張 良	消火戦術分野 C/P (戦術・指揮担当)	教官
	候井龍	消火戦術分野 C/P (戦術・指揮担当)	教官
	李廉越	消火戦術分野 C/P	兼通訳
	劉 競	衛生管理	
直属消防中隊 (28名)	王 巖	中隊長 (消火戦術 C/P)	
	一立忠	副中隊長 (消火戦術 C/P)	
	王 義	副中隊長 (消火戦術 C/P)	
	張 タレ	排長 (消火戦術 C/P)	
	*その他	消防隊員 24人	
顧問 (6名)	陳益新	北京市消防局副政治委員 (副局長クラス)	非常勤
	張建国	北京市消防消防学校長	非常勤
	王徳志	北京市消防局第一支隊長	非常勤 消火 戦術 C/P
	李躍生	北京市消防局第一支隊 副隊長	非常勤 消火 戦術 C/P
	李建林	北京市消防局防火部 火災原因調査処長	非常勤 火災 原因 C/P
	姚鴻義	北京市消防局防火部 危険物安全管理処長	非常勤 危険物 C/P

## (3) 教材作成一覧表

## 教材作成一覧表

専門分野	教材名	備考
1. 市民防火防災教育指導	1. 「市民防火防災教育指導教本」 2. 「市民防火防災教育指導必携」 3. 「北京消防訓練センターパンフレット」 2冊 4. 「防火防災知識宣伝冊子」 5. 「家庭消防知識スライド教材」	
2. 消防設備操作及びメンテナンス	1. 「消防設備消防施設検査要領編」 2. 「消防設備消防消火施設編」 3. 「消防設備消防警報施設編」 4. 「消防設備防災センター業務技術編」 5. 北京消防協会研修用教材「消防設備部分」 6. 「公共建築消防安全必携」 7. 「企業単位消防知識研修用パワーポイント教材」	改定中
3. 建築防火技術	1. 「建築防火」日本法規版 2. 「建築施設、消防設備防火スライド教材」	
4. 危険物安全管理技術	1. 「危険物実験要領集」 2. 「危険物予知訓練」	
5. 防火検査と監督	1. 「単位消防安全管理教材」 2. 「北京市消防安全専門研修実施規則」 3. 「中華人民共和国消防法スライド教材」 4. 「北京市消防条例スライド教材」	
6. 火災原因調査技術	1. 「日本火災事例集」 2. 「火災模擬実験研修教材」 3. 「火災原因調査手順」 4. 「火災模擬実験ビデオ教材」中国語解説書	
7. 消火戦術及び技術訓練	1. 「消防救助概論」 2. 「消防救助操法」 3. 「消火戦術概論」 4. 「消火訓練概論」 5. 「作戦概論」 6. 「消防救助技術操法 VCD 教材」	

## (4) 防災館来館者実績

1999年市民防災館来館者統計表

月 別	人 数
11月	1864
12月	1482
合 計	3346

2000年市民防災館来館者統計表

種別 月別	市内				北京市以外		合計
	企業職員	学生	公務員	局関係者	他都市	外国人	
1月	30	120	220	17	80	0	467
2月	40	34	171	230	96	0	571
3月	217	785	408	21	50	1	1482
4月	215	1062	232	10	176	30	1725
5月	174	670	135	14	184	20	1197
6月	278	396	198	32	0	53	957
7月	116	410	157	0	40	0	723
8月	146	877	62	0	150	0	1235
9月	463	40	450	0	130	10	1093
10月	425	1553	6	24	28	48	2084
11月	1070	1365	199	0	104	20	2758
12月	525	326	124	7	31	3	1016
合計	3699	7638	2362	355	1069	185	15308

2001年市民防災館来館者統計表

種別 月別	市内				北京市以外		合計
	企業職員	学生	公務員	局関係者	他都市	外国人	
1月	2	450	0	0	2	0	454
2月	174	93	42	13	10	0	332
3月	630	290	23	0	40	5	988
4月	137	1666	30	29	50	6	1918
5月	483	895	63	4	115	0	1560
6月	978	134	270	0	0	0	1382
7月	672	650	127	0	0	53	1502
8月	487	320	118	5	20	14	964
9月	816	570	236	0	0	20	1642
10月	737	440	647	0	60	20	1904
11月	831	820	446	3	60	0	2160
12月	264	946	118	0	0	56	1384
合計	6211	7274	2120	54	357	174	16190

注1. 市民防災館は、1999年10月22日落成、11月開館。

注2. 上記統計数字は、2001年12月現在までのものである。



活動計画表(Plan of Operation for Whole Period)

プロジェクト目標:北京市消防局の消防業務能力が特殊火災にまで対応できるようなレベルまで向上する。

Activities 活動	Target 目標	1997		1998				1999				2000				2001				2002		Responsible Person in Project Team	Input	Remarks
		III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	I	II					
<b>【運営体制の確立】</b> 1-1北京市の消防体制(法制度、人材育成、技術面)のレビューを行う。 1-2組織運営体制に必要な要員、教官及び講師を確保する。 1-3人事・予算・施設管理機能を整備する。	北京消防訓練センターの運営体制が確立される。	←	→																	チーフアドバイザー 訓練センター主任	チーフアドバイザー、 業務調整員、 各協力分野専門家、 訓練センター主任、 副主任、 各協力分野C/P、 センター職員			
<b>【施設/機材の整備】</b> 2-1施設/機材計画を策定する。 2-2計画された機材の購入及び設置を行う。 2-3機材の使用方法的講習を実施する。 2-4施設と機材の良好なメンテナンスを検討する。	実習・訓練用機材が整備される。	←	→																	チーフアドバイザー 訓練センター主任	チーフアドバイザー、 業務調整員、 各協力分野専門家、 訓練センター主任、 副主任、 各協力分野C/P、 センター職員  必要機材			
<b>【コース運営】</b> (7分野 消火戦術訓練、防火検査、火災原因調査、市民防火防災、危険物安全管理、消防設備、建築防火) 3-1研修コース調査を行う。 3-2カリキュラム・教材の現状調査を行い、カリキュラム・教材を開発する。 3-3教官・講師の指導を行う。 3-4各コースを実施する。 3-5各コースを評価する。	消防職員及び事業所消防の防火担当者のための研修が運営される。	←	→																	チーフアドバイザー 訓練センター主任	各協力分野専門家、 各協力分野C/P、  必要機材			
<b>【市民教育】</b> 4-1センター内に防災館を整備する。 4-2防災に関する市民教育の手法を改善する。 4-3センターに関する広報活動を実施する。 4-4防災館を利用した教育活動を実施する。	市民に対する防災に関する啓蒙活動が向上する。							←	→											チーフアドバイザー 訓練センター主任	各協力分野専門家、 各協力分野C/P、 センター職員  必要機材			
<b>【モニタリング】</b> 5-1各年次の分野別の詳細な活動計画を作成する。 5-2プロジェクト参加者により、定期的にモニタリングを実施する。 (ハースラインナーハイを含む) 注:「モニタリング」は従来の四半期報告書を改良する形で行う。 5-3合同委員会・プロジェクト内会議を定期的に実施する。		←																			各協力分野専門家、 各協力分野C/P、 センター職員			

(5) 活動計画表 (P/O)

中国北京消防訓練センタープロジェクト 暫定実施計画(TSI)

投入/年次	1997/10~1998/3	1998/4~1999/3	1999/4~2000/3	2000/4~2001/3	2001/4~2002/3	2002/4~2002/9	備考
協力期間	← 1997年10月1日~2002年9月30日 →						
(日本側) 1. 日本人専門家派遣 1) 長期専門家	上段点線: 計画 下段実線: 実績						
・チーフアドバイザー	[Dotted line from 1997/10 to 2002/9]						
・業務調整	[Dotted line from 1997/10 to 2002/9]						
・防火検査と監督(予防総括)				[Solid line from 2000/4 to 2002/9]			* 追加派遣
・消火戦術及び技術訓練	[Dotted line from 1997/10 to 2002/9]						
・火災原因調査技術			[Dotted line from 1999/4 to 2000/3]	[Solid line from 1999/4 to 2000/3]			
・市民防火防災教育指導		[Dotted line from 1998/4 to 1999/3]	[Solid line from 1998/4 to 1999/3]	[Solid line from 2000/4 to 2002/9]			* 追加派遣
・危険物防火安全管理				[Dotted line from 2000/4 to 2001/3]	[Solid line from 2000/4 to 2002/9]		* 追加派遣
・消防設備操作及びメンテナ		[Dotted line from 1998/4 to 1999/3]	[Solid line from 1998/4 to 1999/3]				
・建築防火技術			[Dotted line from 1999/4 to 2000/3]	[Solid line from 1999/4 to 2000/3]			

2) 短期専門家		○	○	○	○	○	* 必要に応じ派遣 * 派遣実績
・防火検査と監督				3M/M×1名			
・消火戦術及び技術訓練		3M/M×1名	3M/M×2名	3M/M×2名	3M/M×2名	3M/M×1名(予定)	
・火災原因調査技術				3M/M×1名	3M/M×1名		
・市民防火防災教育指導			3M/M×1名				
・危険物防火安全管理				3M/M×1名			
・消防設備操作及びメンテナンス		3M/M×2名		6M/M×1名			
・建築防火技術			3M/M×1名	3M/M×1名			
・セミナー講師			1W×2名	1W×2名	1W×2名	1W×2名(予定)	
2. 研修員受入	○	○	○	○	○	○	* 詳細は別添「研修員受入実績表」参照
	4名	6名	6名	6名	5名	3名	
3. 機材供与		○	○	○	○	○	* 詳細は別添「供与機材台帳」参照
4. 調査団派遣		▲ 計画打合せ		▲ 巡回指導(中間評価)		▲ 終了時評価	
(中国側)							
1. カウンターパート配置							* 詳細は別添「C/P配置表」参照
2. ローカルコスト負担							* 詳細は別添「予算執行一覧表」参照
3. 訓練センター建設	●	● 98.8竣工					
	●	* 本館工事	● 99.10竣工			● 新防災館工事	● 2002.8月竣工予定

中国北京消防訓練センタープロジェクト 暫定実施計画

投入/年次	1997/10~1998/3	1998/04~1999/03	1999/04~2000/03	2000/04~2001/03	2001/04~2002/03	2002/4~2002/9	備考
年次	1年目		2年目	3年目	4年目	5年目	
協力期間	97.10.1					2002.9.30	
(日本側)							
1.日本人専門家の派遣分野							
1)長期専門家							
・チーフアドバイザー (防火検査と監督兼務)							
・業務調整							
・消火戦術及び技術訓練							
・火災原因調査技術							
・市民防火防災教育指導							
・危険物防火安全管理							
・消防設備操作及びメンテナンス							
・建築防火技術							
2)短期専門家		○	○	○	○	○	必要に応じ派遣
2.研修員受入	○	○	○	○	○	○	
3.機材供与		○	○	○	○		○は機材到着時期を表す
4.調査団派遣		▲ 計画打合せ		▲ 巡回指導 (中間評価)		▲ 評価	
(中国側)							
1.カウンターパート配置							
2.ローカルコスト負担							
3.訓練センター建設		98.8竣工					

## 9. 消防関係法令及び規則一覧

### 消防関係法令及び規則一覧

1. 中華人民共和国消防法 1998年9月1日施行
2. <消防安全研修業務の推進に関する通知>  
公安部、労働部令 1994年 100号令
3. <消防改革及び発展綱要>  
公安部令 1995年1月28日公布
4. 北京市消防条例 1997年9月17日公布
5. 北京市防火安全業務管理規定 2000年5月1日施行
6. 北京市消防安全専門研修実施規則 2002年1月1日施行
7. <北京市消防安全専門研修実施規則>規定対象者一覧表
8. 消防安全研修に関する法律規定
9. 北京市化学危険物貯蔵に関する消防安全管理規則 1998年10月1日施行
10. 北京市化学危険物輸送に関する管理規則 1993年10月1日公布
11. 北京市化学可燃性物に関する防火安全管理規則  
1986年12月1日施行
12. 可燃性、起爆性物に関する消防安全監督管理規則 1994年5月1日施行
13. 公的機関、団体、企業及び事業単位における消防安全管理規定  
公安部令 2002年5月1日施行（予定）
14. <教育訓練の改革及び強化に関する通知>  
北京市消防局内部規定 2000年8月9日公布